令和６年度　居合道審査　学科試験問題と模範解答

初段～三段

1. 『居合道の理念』と『居合道修錬の心構え』を記せ。

理念…居合道は剣の理法の修錬による人間形成の道である。

修錬の心構え…居合道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して旺盛なる気力を養い、居合道の特性を通じて礼節をとうとび信義を重んじ誠を尽くして、常に自己の修養に努め、以って、国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。

2. 日本刀（刀身及び拵え）を図示し、各部の名称を合計１５箇所以上記せ。

～別紙参照～

3. 全日本剣道連盟居合の一本目から十二本目までの業前名を正しく記せ。

①　前	②　後ろ	③　受け流し	④　柄当て	⑤　袈裟切り
⑥　諸手突き	⑦　三方切り	⑧　顔面当て	⑨　添え手突き	⑩　四方切り
⑪　総切り	⑫　抜き打ち			

4. 『序破急』について説明せよ。

序破急とは動作を行う場合の緩急の度合をあらわす言葉である。即ち、

「序」とは、はじめということで静かにゆっくり行うものであり、抜付けの際の抜き始めは序である。

「破」とは、序の静けさを破ることであり、ゆっくりと抜はじめた刀が次第に速度を増す過程をいう。

「急」とは、速度を増した刀が鯉口を離れ、敵に激しく抜付ける鋭さをいう。

居合の技はすべて序破急のテンポで行なわなければならない。

5. 『目付け』について説明せよ。

居合の目付けは、九尺（約 2.7 メートル）前方の床とするが、一点を凝視せず八方に心眼を注ぎ、遠山を望む気持ちになることが重要である。五輪書にも「観の目強く、見の目弱し」とあるように、半眼に目を開き心の目で観ることが肝要。

動作中の着眼は敵の全体であるが、その中点は敵の目とする。座技の場合、立技の場合、何れの場合でも、自分と同じ高さの仮想敵の面である。斬下した場合はその刀のあとを追うがごとくに、又倒れた敵に目付をなす場合、それを見越した地点とする。

四段・五段

1. 『居合道演武の心得』について述べよ。

演武はすべて、充実した気勢、正確な刀法、適法な姿勢、いわゆる「気・剣・体の一致」を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で「行ずる」心がけが大切である。

2. 『手の内』について説明せよ。

手の内とは、刀を操作する『掌中の作用』であり、両手首、両手の指を最も効率的に使う働きのことである。

柄の握り方は、鍔下縁金に右手の人差し指がかからぬようにして握り、両拳の間隔は、指二本ないし三本程度とし、小指と薬指を締め生卵を握る気持ちで持つ。両手の締め方は、切り下す瞬間は両手の手の内に均等に力を入れ、茶巾を絞る要領で右手の小指で絞り込む気持ちで押し、左手の小指で絞り込むように引き、押し手引き手の原理で両手の小指を前後に絞る。切り下した後は、直ちに両手の内を弛めて構えの手の内に戻し次の操作に備える。

居合の場合の手の内は以上の理論を基にするが、ただ重量のある刀を操作して然も引き斬りに行なうため、四本の指と親指の働きとで五本の指が一本と成り、掌とこの一本化した五指の調和により手の内が形成される。

俗に『手の内がよい』といわれる抜き付け、切り付けは一朝一夕に出来るものではなく永年の修錬によって会得できるものである。

3. 『平常心』について説明せよ。

平常心（へいじょうしん）とは、心に過度の緊張や、あるいは、ゆるみがなく、精神が安定している状態をいう。

人間の活動は元来、精神と肉体が一体となって働くものであるから、有効適切な動作は安定した精神状態と集中力がなくてはできない。殊に、居合道では昇段審査・試合・大会における演武などの際には、いっそう平常心で臨むことが重要となる。平常心を養うためには、正確な修行の積み重ねによる自信と、何事にも動じない精神を養うことが肝要である。

古来、剣術には「明鏡止水」、「無念無想」、「無心」、「不動心」など、心のもち方に関する教訓が多いが、これは、心境がいかに大切かを示す証拠といえよう。

4. 『守破離』について説明せよ。

守破離（しゅ・は・り）とは、居合道における修行の過程のあり方を示したものである。すなわち、居合道の修行では、初歩の段階は、先生の教えを忠実に「守り」、先生の真似をすることが大切である。次に、修行の中期では、守の段階で身につけたものを土台として自己を発見し、殻を「破り」、力強く独立していかなければならない。そして最後には、先生から完全に「離れ」、独自の境地を拓いて新しい一派を作り上げ、創造の段階へと到達しなければならない。

5. 全日本剣道連盟居合の一本目『前』の『要義』並びに『審判・審査上の着眼点』を記せ。

～要義～

対座している敵の殺気を感じ、機先を制して『こめかみ』に抜きつけ、さらに真っ向から切り下ろして勝つ。

～審判・審査上の着眼点～

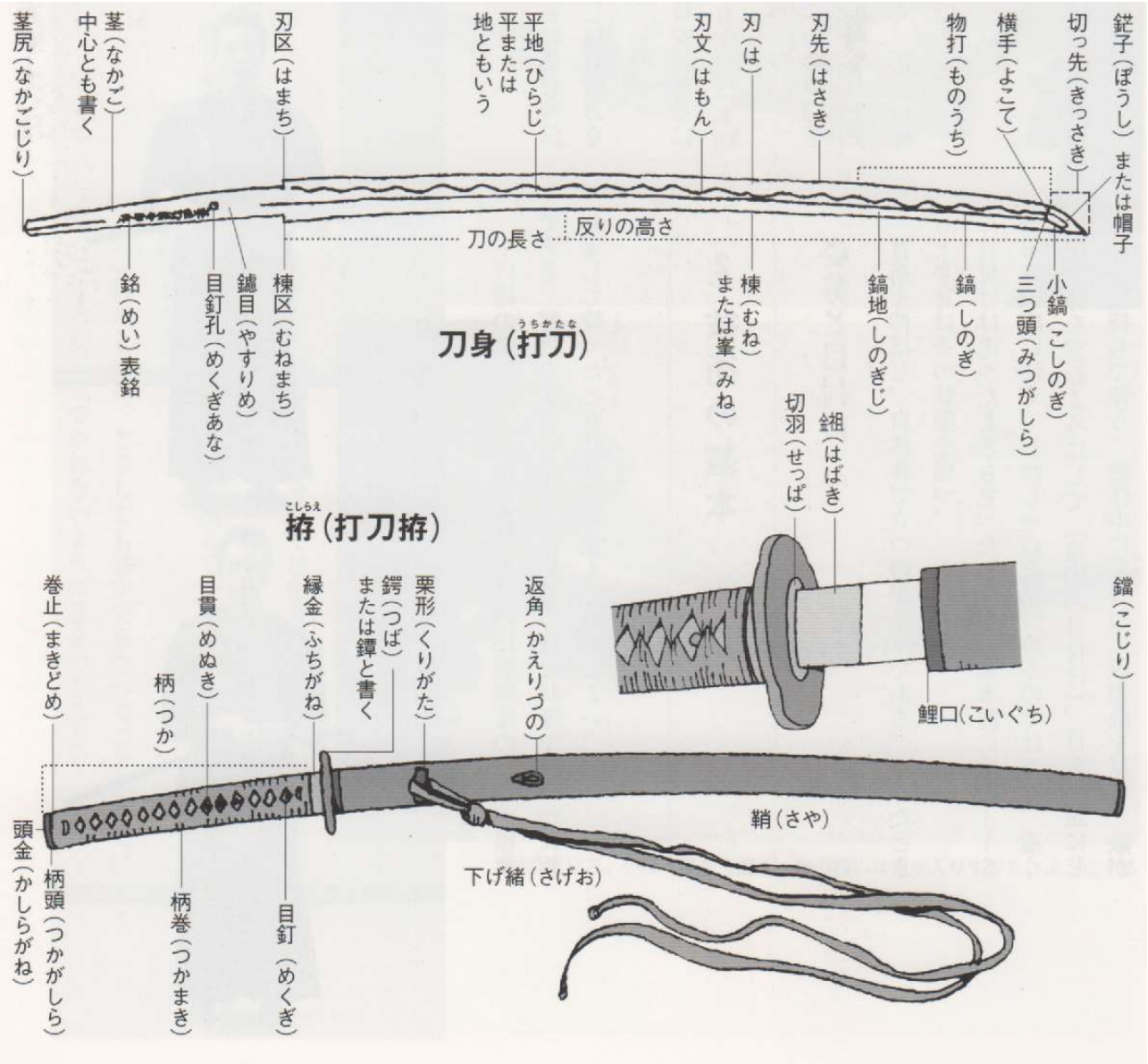
① 抜きつけのとき、充分に鞘引きをしているか。
② 左の耳にそって、後ろを突く気持ちで振りかぶっているか。
③ 振りかぶった切っ先は、水平より下がっていないか。
④ 間を置くことなく切り下ろしているか。
⑤ 切り下ろした切っ先は、わずかに下がっているか。
⑥ 血振りの体勢は正しいか。
⑦ 正しく納刀しているか。

以　上

居合道審査　学科試験問題と模範解答

別　　紙

日本刀および拵の各部の名称



以　上